

令和3年度 第1回 秋田県立農業科学館運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和3年7月14日(水) 13:30~16:00
- 2 場 所 秋田県立農業科学館 多目的ホール
- 3 出席者 委 員(6名) 佐藤啓子委員、菅原和久委員(副委員長)、奈良克久委員、
畠山仁委員(代理市川真喜子教頭)、山信田勢津子委員、
頼泰樹委員(委員長)
生涯学習課(1名) 三春学芸主事
本館職員(7名) 柿崎館長、齊藤総務班長、高橋学芸班長、戸島学芸主事、
佐々木学芸主事、照井学芸主事、佐藤専門員
- 4 案 件 (1) 報 告
① 農業科学館の事業について
・令和2年度 事業実績について
・令和3年度 各種事業について
(施設見学)
(2) 協 議
① これからの農業科学館について

【議事録】

1 開会

2 館長挨拶

柿崎館長

委員の皆様にはお忙しいところまた暑い中御出席いただき感謝申し上げます。昨年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から当該協議会を開催しておらず、(委員皆様の)任期2年目の今年、開催できたことを心から良かったと思っています。

新型コロナウイルス感染症については、一昨年度末以来、全国的に感染者が増加し、首都圏等には緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が繰り返し発出される中、県内にもクラスターが発生するなど、現在も予断を許さない状況になっている。本館としても感染対策として、来館者に対して、検温、手指消毒の徹底、氏名等連絡先記入(感染発生時の追跡調査用)をお願いしている。また、多目的ホール等を使用する会議等の受入人数を制限している。合わせて現在は県外からの団体の受入を控えている状況である。新型コロナウイルス感染症が終息し早く平穏な日々が戻ってほしいと願っている。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で企画展・事業の中止が相次ぎ、加えて当館敷地内にクマが出没したり、冬季間豪雪による除雪のための臨時休館があり、入館者数については、一昨年度に比べ半減の状況であった。

今年度は、現在、入館者数については一昨年度と同程度に推移している。また、懸案事項であった展示室の雨漏り対策については、屋根の大規模改修が決まり、第一駐車場に現場事務所が設置されている。ただし、コロナの影響もあり、工期が伸びることが懸念されている。

<p>3 委員紹介</p> <p>4 職員紹介</p>	<p>齊藤総務班長</p> <p>齊藤総務班長</p>	<p>本日はこれから、担当から、昨年度の事業実績の報告、及び今年度の各種事業について説明させていただくが、その後、協議題についての協議になる。</p> <p>当館においては、様々な面で課題を抱えていると認識している。委員の皆様には、是非とも些細な点についても忌憚のないご意見を頂戴したいと考えている。本日はどうかよろしくようお願い申し上げます。</p> <p>委員紹介</p> <p>職員紹介（生涯学習課出席者含む）</p>
		<p>(資料確認)</p> <p>(運営協議会規定、運用細則について)</p>
<p>5 委員長副委員長選出</p>	<p>齊藤総務班長</p>	<p>委員長・副委員長の選出は、規程により委員の互選となっている。御意見がなければ事務局から提案させていただくが、いかがか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>事務局案として、委員長は頼委員、副委員長は菅原委員をお願いしたい。</p> <p>(拍手了承)</p> <p>それでは委員長が議長を兼ねることとなっているので、この先の進行を議長にお願いする。</p>
<p>6 案件</p> <p>(1) 報告</p>	<p>議長（頼委員）</p> <p>高橋学芸班長</p>	<p>会の円滑な進行について、皆様の御協力をお願いする。</p> <p>最初に、案件（1）報告について事務局から説明をお願いする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度事業実績について 事前送付資料等により報告 《補足説明》 <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業 オータムフラワーフェスタ「秋を彩る」～ 従前からのバラフェスタ「秋を彩る」から、県産ダリア・四季咲きバラ、コスモス等を加えた事業に変更 ・公募企画展 コロナ禍に加え、開催団体の都合による中止もあり ・セカンドスクール 県外利用なし（例年は仙台市内利用あり） ・利用者状況 年度間の共通 6～7月、9～10月の利用多 ・令和3年度各種事業について 事前送付資料等により説明 《補足説明》 <ul style="list-style-type: none"> ・公募企画展

	<p>コロナ禍に伴う開催団体の自粛等による中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示追加 大曲農業高校による就農に関する展示、 県内博士号教員による発表展示 ・ゼミナール 食コース実施困難に伴う自然コースの新設
議長（頼委員）	<p>農業科学館から案件（１）について報告があった。委員の皆様から質問等があればお話いただきたい。</p>
菅原委員	<p>２年度の利用者状況について、２月は令和元年度よりも増えているが、コロナ禍の状況にあつて、増えた要因は何かあるのか。</p>
高橋学芸班長	<p>今年の１月は、積雪による雪害の休館はあつたが、１月の途中からは天候が穏やかになった。この時期は（温室で）「洋らんフェスタ」を行っている。時期的に特設の展示等はないので、「洋らんフェスタ」による集客が要因と思われる。穏やかな天候時に、温室の洋らんを観賞に来る来館者が多かつたようである。</p>
山信田委員	<p>（今年度新設の）自然コースの、５月１日の自然散策は実施したのか。何名くらいの参加があつたのか。</p>
高橋学芸班長	<p>予定どおり実施した。道具の関係で募集定員は１５名だつたが、職員を含め合計２０数名で実施できた。</p>
議長（頼委員）	<p>２年度のセカンドスクールは利用数が少なかつたようだが、県内からはどこらへんの学校が多いのか。</p>
戸島学芸主事	<p>（県外については、例年、仙台市内からの利用であり、今年度も仙台市内２校から問い合わせがあつたが、県教委の通知により、県外からの利用を断つた経緯がある。）</p> <p>県内については、多くは大仙市、横手市からである。秋田市からの利用もある。</p> <p>（補足だが、２年度利用については、密にならないように、幼稚園等の一日の利用を制限したため、利用数が減少している。）</p>
佐藤委員	<p>バラは万人が好む花で、バラフェスタは地元において自分自身も楽しみにしている。今年も期間中に来たが、幅広い年代の方が、写真を撮るなどして観賞していた。高齢者はもちろん小さい子どもを連れた家族連れが多いと感じた。バラフェスタについては、コロナ禍にあつても、注意しながらたくさんの方が来ているなど思った。</p> <p>昨年の資料を確認したが、バラフェスタ期間中の６～７月の利用者数が多いが、今年度、メディアにも取り上げられていたようだが、利用者数はどうだつたのか。</p>

高橋学芸班長	<p>今年の集計では、21,000名ほどであった。参考までに、令和元年度が19,000名ほどで、元年度まではバラフェスタ期間の最終に農業科学館まつりというイベントを行っており2,000名ほどの集客があり、イベント込みの利用者数だった。今年度は農業科学館まつりは行っておらず、数的には大きく躍進したと思われる。</p> <p>先ほど委員から家族連れの利用の感想があったが、今年度、バラフェスタ広報用のチラシの裏面に、子ども向けのイベント・講座等の予告PR紙面を作成し、小学校・幼稚園等を通して保護者に配付した。このことが、家族利用に効果があったと分析している。</p>
議長（頼委員）	<p>メディアの話があったが、TV、新聞等、報道については、どれぐらい取り上げられたのか。</p>
高橋学芸班長	<p>TV取材については、複数のメディアから取り上げてもらった。特にNHKの放送後は、反響が大きく集客に直結した。新聞では、地元紙秋田民報や秋田魁、読売にも掲載していただいた。取材時期が分散し、バラフェスタ期間の最後まで集客につながった。タイミングが良かったと感じている。報道機関には感謝している。</p> <p>～休憩（施設見学）～</p>
(2) 協議	<p>頼委員（議長） 協議の内容について、事務局から説明をお願いします。</p>
柿崎館長	<p>資料9Pにあるとおり、今回の協議題は、「農業科学館のあり方について」とし、農業科学館の現状と課題から、中・長期的に農業科学館はどうあるべきかを考える、とさせていただいた。</p> <p>考える視点の1，にあるように、農業科学館は、「本県の農業および林業並びに農村生活に関する理解を深めるとともに、農業および林業に関する科学技術について学習の機会を提供し、もって県民の文化の向上に寄与する」ことを設置目的とし、平成3年5月22日に開館し今年度で開館30周年を迎える。</p> <p>農業科学館は、県内に7施設ある登録博物館ではないが、博物館相当施設に位置づけられている。博物館相当施設は、県内に5施設あるが、当館は博物館相当施設として、先ほど見学していただいた二つの常設展示室のほか、地下には収蔵庫や収蔵品・資料等を燻蒸する設備を備えている。</p> <p>また、パンフレットにあるように、「秋田の食と農の交流拠点」を標語として、「学ぶ、遊ぶ、感じる」を合い言葉に各種展示・事業を行ってきている。2020年度からの中期ビジョンには、「食・農・自然」をとおした、心豊かな「人づくり」を目指すことを目標に掲げ、「展示」、「植栽」、「ゼミ・講座」、「セカンドスクールの利用」、「他機関との連携」、</p>

「情報発信・利用拡大」の6項目について示している。

先日までに行われたバラフェスタ期間中の入場者は21,000名を超え、バラフェスタに関してはコロナ禍前まで持ち直している。一昨年度の年間入場者数は78,000名ほどで、当館の規模と地理的なことを考えると、かなりの入場者数ではないかと感じている。

しかしながら、博物館相当施設としての本館内の展示室を見に来る方よりも、季節ごとの植栽等を見に来るの方が多いのが現状である。バラ園についても当初は花壇広場であり、平成12年頃から集客のためにバラ園に変えていった経緯がある。

開館から30年を迎え、入館者確保のため、様々な機関と連携しながら農業科学館の存在意義を高めるために、その時々スタッフは徐々に改善していった結果が、現在の農業科学館の姿なのではないかと思う。

農業科学館は県教委の生涯学習課が所管する社会教育施設でもある。社会教育施設として、また、持っている強みを生かしながら、今一度立ち止まって、本来の農業科学館のあり方、将来の方向性について、考えなければいけない時期に来ている。

今年度は、主管課の生涯学習課と将来の方向性について、協議を進めている最中である。このなかで農業科学館の現状認識と課題、そして、中・長期的にどうあるべきかそれを検討するためにも、職員だけではなく、外部の方々からの意見・評価を取り入れていきたいと思っている。委員の皆様からは、この部分は残してほしい、この部分は改善してほしい、このような方策があるのではないかと、といった様々な提言・御意見をいただきたい。よろしく願いたい。

頼委員（議長）

館長から、農業を科学するという目的で来ている方がどれくらいいるのかについての説明があったが、私自身、一般の方に大学を説明する場合考えることがある。大学は農業を研究するところで、10、20年先の農業を改善するために研究していると、説明している。

農業科学館の役割は、本来であれば、今の秋田の農業を発信する、説明する、科学するといった、機能が必要ではないかと思うが、現状としては、ジオラマをみても昔の農業を伝える状態にとどまっている。

今の農業を伝えるにあたっては、地域の農家の皆さんや、県の機関では農業試験場、果樹試験場との連携が欠かせないと思われるが、農業試験場の方から展示物もしくは連携等はどのようになっているか。

高橋学芸班長

具体的に事業としての連携は明確にはないが、展示物は年間のある一定期間において、各試験場において研究しているもののパネルや実物等を展示している。

なお、昨年度は、果樹試験場の展示の際に、本館の果樹について実際にみていただいて、（管理の）手立てについて指導を受けている。更新の苗の種類についての相談（秋田県で力を入れている品種や売りたい品種）、受粉時の技術的なアドバイスを受け、果樹の栽培に役立てている。

頼委員（議長）	<p>具体的に展示に結びついたことはないが、農業試験場、果樹試験場の機関紹介の展示は行っている。</p> <p>農業試験場の状況は承知している。状況は厳しいものがある。担当は事業のことで多忙を極め、機関どおしで連携を進めるのは難しいのではないかと。</p> <p>主管課の生涯学習課で、農林水産部等に働きかけて、連携等新しい展示物などの話を進めることはできないのか</p>
高橋学芸班長	<p>今年度に入り、農水部の農林政策課の企画・広報班に依頼し、林業関係のパネル資料等展示物を借りて、現在、展示通路に展示している。つながりはできている。</p> <p>現在、展示している畜産試験場、そして農業試験場、果樹試験場の展示パネルについても、農林政策課を通して借りているので、ルート、つながりはできている。ただし、資料パネル等展示物については、各機関に任せており、こちらでは集約・展示のみのつながりが現状である。</p>
戸島学芸主事	<p>今年度から（セカンドスクールは、）新しい農業について行っている。県のコまちチャンネル内にある、スマート農業の映像をいただき、子どもたちには見せているが、自分としてはドローン等実物があればと思っている。</p> <p>先ほど展示のお話があったが、現状として変更が難しい展示室なので、どのような展示があればいいのか御提言をいただきたい。</p>
市川教頭	<p>展示室を見学したが、平成20年度に展示室をリニューアルしたあとでも、一所懸命手を加えていて苦勞なされていると感じた。</p> <p>展示してある本校の子どもたちの手紙の中で、クイズが楽しかった等の感想があった。子どもたちは体験型・参加型が大好きで、ドローン等の実物があれば、実際見て触ったりしての学習は、興味関心をもって展示に関わっていくと思われる。</p> <p>今は折り紙しかできない展示室のスペースで、過去にはそば打ち等の体験ができたとのことだったが、諸問題がある中で難しいとは思いますが、子どもたちが動いて参加する企画を、取り込んでもらえればと思った。学校との連携については、コロナ禍にあっても小学校、保育園等の利用は増えている。関心を持って来ていると思う。（企画等を）考えていただければより利用回数が増えると思う。</p> <p>もう一点、実際（場所的に）バス等がないと来られないケースがある。大曲西中学校に勤務していた時は、歩いてこれる農業科学館は親しみやすい場所であり、国語の授業でも使用したことはあるが、（ほとんどの学校が来るためには）早めに市バスを予約する必要があると、教員には煩雑なことでもある。学校の教員に農業科学館に来れば何かができるという気持ちにさせることも必要なのではないか。たくさん学年が利用することで、農業に親しめるものになるのではないかと。</p> <p>本校でも学習田がなくなり、実際稲に触ることがなくなった。農業科学館の価値である、実際触って目にし体験できるこ</p>

	<p>とは、貴重で大事な場所である。改めて認識した。学校の教員にも伝えたいと思う。</p>
戸島学芸主事	<p>昨年度末、加賀谷氏の昔の農村風景の写真パネルを持って、小学校に（出前に）伺っている。昔の暮らしや道具などについて、出前で2，3月に10校ほど行った。</p> <p>稲に触る体験については、バケツの稲を持って行くこともできる。学校からも、こういったものを持ってきてほしい、こういった授業がしたい等の要望がほしい。今のお話はありがたい。</p>
市川教頭	<p>昨年度、小学校3年生が総合の時間に、地区自慢ということで、昔の暮らし、道具、花についてネットで調べていた。農業科学館に来れば良かったと感じていたが、出張で来ていただけるのであればもっと良かった。大仙市の小・中学校にはもっと利用してほしい。</p>
佐藤委員	<p>資料をみると大曲農業高校との連携事業、高校紹介展示等が行われている。大人以上に、高校生、小中学校の子どもたちにとっては、時代は変わっても、なくてはならない施設ではないかと思う。食と農については、学校でも学ぶし、地元の大仙市や横手市の学校の子どもたちは、ここ農業科学館に何回も足を運び学んでいる。学んだことを、地域に発信する場としての施設として、また、現場の先生方にとっては、ここに来れば何かある、教えてもらえる、指導してもらえるというような、安心するような場であってほしい。学校は、地域があつての学校運営だということを教育関係者はよく話している。農業科学館は（子どもが）地域のことを考える受け皿を提供する場であってほしい。それが、地域の活性化にもつながると思う。</p> <p>所属するJA女性部でも、食や農、食育をとおして子どもたちと交流する機会があり、これからも続けていきたいし、農業科学館を通して将来的に一緒に活動できたらと思う。対応してくれる関係作りを築ければとも思う。私自身、この施設に期待しているところが多々ある。これからもお願いしたい。</p>
菅原委員	<p>施設を見学し、過去、現在、未来と見た場合、やはり、今の状況では、未来の展示、将来の農業はどうなるのかなといったものが不足していると感じた。</p> <p>現在の農業については、県内各地の小学校、県北からも見学に来ると思う。農業は、県内各地に違いがあると思うが、県内各地の農業の展示があれば、自分の地区の農業と、他の地区とは違いがわかり勉強になるのではないか。</p> <p>農業は、医療と同じで生命を支える、なくてはならない産業である。秋田県の子どもたちであれば、全員一回はここ農業科学館を見たことがあるというようになればと思う。小学生であれば学習する時期に合わせ、何年生を対象にするのか、例えば3～4年生をターゲットにクイズや展示を作るなどを考えては。誰にでもわかる展示を作るのは難しい。県内の小学校の学年学習旅行などのルートの一つとして、農業科学館がスタンダードになればいいのではないか。</p>

	<p>農業は幅が広い。本校では畜産があるが、展示を見たところ、畜産の展示がなく、設置目的にある林業の説明・展示が多くないように感じた。秋田県では今、林業大学校を設立して林業にも力を入れようとしている動きがあるが、どうなっているのかと感じたところである。</p>
戸島学芸主事	<p>当初、設立のための資料調査を行っている。昭和55年から平成3年まで12年間、約一万点ほど行っている。うち三千点は了承の上いただいている。その中には、畜産、林業関係のものもある。平成19年にリニューアルする前には、畜産の展示があった。リニューアルの時点で方向性が変わり、展示も変わった経緯がある。</p> <p>第一展示室は昭和30年代の展示であるが、10年後において、昔の農業の展示がこのままでいいのか個人的には疑問である。（畜産の展示がない、ということは認識している。）展示について、このままでいいのかを含めご意見をおききたい。</p>
頼委員（議長）	<p>展示についてのご意見を伺いたい。</p>
市川教頭	<p>普遍的なものもあるので、10年先にも残しておきたいものはある。必ずしも、10年先は10年先の展示でなければいけないというものでもないし、変えていかなければいけないものもある。時間軸を考えて展示を進めなければいけないものもあり即答できないが、普遍的なものもあると考える。</p> <p>展示について一つ気づいたこととして、「ふりがな」がなかったことである。クイズが人気とのことだったが、画面を見るとふりがなをふっていないかった。小学校低学年は耳で聞いてわかって楽しむことはができるが、映像に「ふりがな」があればと感じた。随所に、子ども向けのようなのに、ふりがながないものがいくつかあり、字の大きさなども含め配慮していただければ、より親しみを持てるのではないかとお願いしたい。</p>
山信田委員	<p>大曲保育会の保育園は、毎年秋にはほとんどの園でりんごの収穫等体験をさせていただいている。体験を通して、小さい子どもは五感で、りんごのにおいを感じたり、収穫する喜びを感じたり、直接的な感覚で楽しめているのが農業科学館なのではないか。本館内よりも、外の芝生で遊んだり散策したりして農業科学館をあじわっている。</p> <p>設置目的については、保育園児は体験を元に利用し、小学生はこのレベル、中学生はこんなことを感じていける、というような施設であってほしい。それが、就農につながるのではないか。今は、農業に就く若い人が減っている。</p> <p>現在、保育園では味噌を作っている。豆を育て味噌を作り給食で食べたり、バケツで稲を育て秋に収穫しおにぎりを食べたりしている。各保育園では、稲を育てたり、畑で野菜を育てたり、いろいろな農業体験を保育園レベルでもすでに行っている。こういったことを農業科学館にもつなげていければと思った。作物の育て方等は地域の方にきいて行っているが、先ほど出前のことを伺った。育て方を教えていただいたりして連携しながら実体験を重ねていけるのではないかと考えた。</p>

奈良委員

地下にあるたくさんの展示品については、出してきて見せることはできないのか。ここではなくても、学校等に出向いて見せるなどする機会があってもよいのではないか。

小さい子どもにとってはテーマパーク的なところもあり、小さい頃にいったことがある施設として足を運びやすいのではないか。

ほっと大仙ほっぺとして、平成17年頃から出店させていたでいた。時期的には毎月来ていたことがあり、来館者数（利用者状況）については、肌感覚で感じている。

展示と集客についての話題があったが、まずは、集客の点では、イベント次第だと思う。以前は、連休のあたりから、バラフェスタ等大きなイベントが3回ほどあったと思うが、企画等について大変かと思う。現在、NPO法人でも現状として人集めは難しい。福祉の立場からみると、高齢者、障害者にとっても人気のある施設であり、さらに集客するには、バリアフリーや「ふりがな」など、いかに情報を伝わりやすくするなどする必要がある。また、館内は概ねバリアフリーになっているが、外についてはかなりのバリアであり、外を車椅子で回るのは諦めなくてはいけない状況である。もったいないと思う。多くの方に芝生や花を体験してもらうためには、バリアフリーに取り組んでもらいたい。お金をかけなくても、工夫でできる。視覚・聴覚障害・車椅子の方当事者に相談してほしい。何か工夫でできるのではないか。多くの方に来てもらえるのではないか。

展示については、年代的には懐かしく感じてはいる。博物館的には、アーカイブとして残してほしい。学芸の方にとっては、何か新しいことを企画をしてほしい。アーカイブと新しいこと、両方必要なのでは。新しい農業、ドローンやICT、就農のチャンネルになるとか。今の農業と、今までの農業の二つあればと思う。知的障害者にとっては、展示を見るだけでは興味が続かなく飽きてくるのが現状で、体験も必要である。例えば、稲等を植えて、収穫することがあれば、通年楽しみながら利用ができる。

県外の中学生が利用しているようだが、その際にお弁当を提供しているが、残す生徒がたくさんいる。食べ物が捨てられるのは悲しい。食べる、作る、作ったものを大事にいただく、農業はこういったことを幅広く学べるものではないか。

頼委員（議長）

第一展示室のジオラマは替えがたいというお話があった。第二展示室は、稲のルーツ等の展示はあるが、真ん中のそば打ち等体験コーナーなど一部使用していない場所がある。第二展示室を、現在の農業、これからの農業に、少しずつ変えることはできないのか。

農業の現場を回っているが、農業はだいぶ変わってきている。無人で動くトラクターなどは、人間がハンドルを動かすよりも機械が行った方が畝がまっすぐでき田植えもきれいにうまくできる。こういうことを出していく必要がいくつあるのではないか。こういったことを、どのように見せる（展示する）かいろいろ考えなければいけないのだが、展示を入れ替えるとなると、かなりの予算が必要になってくる。そのための予算の調

	<p>達、方向性等を、農業科学館としてはどのように考えているのか教えてほしい。</p> <p>展示を変える必要があるのは誰もが考えていることだと思う。それをどういう風にするか、何か考えはあるのか。</p> <p>協議題の説明の際にお話ししたが、今年度から主管課の生涯学習課と将来の方向性について協議を進めている。具体的には、「農業科学館のあり方検討会」を開催し、その中で、令和5年度の予算に計上する材料について、来年夏の予算要求の際に検討資料を提出できるように話し合っている。</p> <p>先ほどから、第一展示室はそのまま、第二展示室の改修について話題に上がっていたが、渡部元館長からも、第一はアーカイブであり、やはり第二の展示が問題になってくると話されていた。第二展示室の奥にあきたこまちの品種改良の展示があるが、ホワイエで展示したものを第二展示室に移動し、現在常設展示しているものである。なので、中央のそば打ち体験コーナーなどを工夫し動かし、今の農業、これからの農業に関する展示に少しずつ変更することは十分可能と思われる。</p> <p>今春、個人的な関係から農水部から林業関係を含めたパネルを借りて展示した。秋田県の農業はサキホコレに代表されるように米が中心だったが、現在は園芸メガ団地、枝豆等、多角的に政策が変わってきている。館内には、米の展示が主で今の政策に合わせた展示がなく、秋田県の今の農業の現状を子どもたちにも知らせるために、パネルを借り展示した経緯がある。</p> <p>部局との連携も含め、今の農業、これからの農業を、ここを訪れる子どもたちに紹介し、少しでも就農につなげるという趣旨で、働きかけをしていきたい。お話を伺って特に思った。</p> <p>実際に予算取りとなると厳しい県財政事情もあるが、主管課に説明し一緒に取り組んでいきたい。</p>
<p>柿崎館長</p>	<p>協議題の説明の際にお話ししたが、今年度から主管課の生涯学習課と将来の方向性について協議を進めている。具体的には、「農業科学館のあり方検討会」を開催し、その中で、令和5年度の予算に計上する材料について、来年夏の予算要求の際に検討資料を提出できるように話し合っている。</p> <p>先ほどから、第一展示室はそのまま、第二展示室の改修について話題に上がっていたが、渡部元館長からも、第一はアーカイブであり、やはり第二の展示が問題になってくると話されていた。第二展示室の奥にあきたこまちの品種改良の展示があるが、ホワイエで展示したものを第二展示室に移動し、現在常設展示しているものである。なので、中央のそば打ち体験コーナーなどを工夫し動かし、今の農業、これからの農業に関する展示に少しずつ変更することは十分可能と思われる。</p> <p>今春、個人的な関係から農水部から林業関係を含めたパネルを借りて展示した。秋田県の農業はサキホコレに代表されるように米が中心だったが、現在は園芸メガ団地、枝豆等、多角的に政策が変わってきている。館内には、米の展示が主で今の政策に合わせた展示がなく、秋田県の今の農業の現状を子どもたちにも知らせるために、パネルを借り展示した経緯がある。</p> <p>部局との連携も含め、今の農業、これからの農業を、ここを訪れる子どもたちに紹介し、少しでも就農につなげるという趣旨で、働きかけをしていきたい。お話を伺って特に思った。</p> <p>実際に予算取りとなると厳しい県財政事情もあるが、主管課に説明し一緒に取り組んでいきたい。</p>
<p>頼委員（議長）</p>	<p>植栽等の外の部分については、整備が進められ、すべての年代の方が訪れ楽しめる憩いの場として入場者も増えているが、社会教育の場として、また、展示の部分については、問題になるところである。</p> <p>第二展示室を中心として、現代の農業、未来の農業について、秋田県の農業は変わっていくのだとわかるように、（展示等を）工夫する必要があるのではないかな。</p> <p>秋田県の農業は稲作一辺倒から、儲かる農業に変わってきている。農業の様々な取組を、みてもらう場所としても重要である。</p>
<p>菅原委員</p>	<p>展示に関しては予算の問題はあるが、映像で見る場所が少ないのではないかなと思った。博物館等のようにボタンを押して目の前に映像が流れたりするのは、予算的には難しいとは思いますが、Wi-Fiの整備状況はどうなっているのか。例えば、QRコードを利用し、読み取りにより映像を見ることができないかな。また、利用が少ない冬期間は、ダリア、バラ等の植栽を、事前にビデオで撮っておいて、映像に流して見せるなどの工夫も新しい時代のものとしていいのではと思った。</p>

齊藤総務班長	<p>昨年度、学校現場ではICT事業によりタブレット等が導入されWi-Fiが整備されたが、それに合わせこちらでも全敷地内のWi-Fi整備の予算要求を行った。昨年度は間に合わず、今年度についても検討事項になっている。</p> <p>予算がつき整備されれば、子どもたちがタブレットを持ってきて、全敷地内で利用できるのではと考えている。</p>
高橋学芸班長	<p>外の植栽に関して各々説明の札がついているが、開館当初のものであり劣化していることから、職員が掲示板を（予算をかけずに）工夫し更新している最中である。ゆくゆくはQRコードをつけて、読み取りで説明が見られるように、現在模索中であり、それが館内においても同様にできるか検討中である。</p> <p>Wi-Fi整備とあわせ、デジタル化に対応したことを進めなければならないと感じている。</p>
菅原委員	<p>（デジタル化は）口で言うのは簡単で、実際は大変かと思うが、聴覚・視覚障害者にとっては、映像や音により理解でき、みんなが勉強できる環境が理想的ではないだろうか。</p>
高橋学芸班長	<p>（QRコードについて）現存では、バラ園において、バラの説明にQRコードをつけて、当館のホームページのバラの紹介にリンクするようになっている。どの程度利用したのかについては、検証はまだ行っていない。元のデータ等を作成する作業もあり、なかなか進まない状況にもあるが、整備しなければならないと思っていたところである。</p>
菅原委員	<p>一人1台タブレットも導入されているので、うまくつながればすごくいい勉強になる。</p>
戸島学芸主事	<p>先日研修員が勤務小学校とオンライン授業を行った。小学校では、タブレット、プロジェクターどちらの形態であればいいのか。</p>
市川教頭	<p>子どもには一人1台タブレット、各教室には電子黒板も導入されている。どちらにもZoomとTeamsが入っており、子どもと職員も使用している。電子黒板とタブレットどちらも利用できる態勢になっている。</p>
頼委員（議長）	<p>（事務局からなし）</p> <p>生涯学習課から一言お願いしたい。</p>
三春学芸主事	<p>本日はお忙しい中、委員の皆様にはお集まりいただき感謝申し上げます。</p> <p>生涯学習課としても、農業科学館のあり方について、全体として検討しているところである。本日の貴重な御意見を課に持ち帰って、今後のために活用させていただきたい。</p> <p>引き続き皆様から御協力をお願いしたい。</p>
柿崎館長	<p>長時間、協議題について様々な御意見を頂戴し感謝申し上げます。</p>

7 その他

8 閉会

る。

先ほど三春学芸主事からあったように、あり方検討会に本日の御意見をそのまま持つて行くことと並行し、今回いただいた御意見の中で、即、取りかかれそうな部分、改善できる点に関しては、館内で対応していきたい。

合わせて、様々な学校・機関との連携については、ここ農業科学館でおこなってみたいこと、つながりで行事をおこなってみたいことなど、要望があったら是非申しつけていただきたい。できる限り対応して、皆様と色々なことをおこなっていききたい。

各委員の皆様には、今後ともどうかよろしくお願ひしたい。